

## 採択理由【 特別の教科 道徳 】

「特別の教科 道徳」については、東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書、日本文教出版、学研教育みらい、廣済堂あかつき、日本教科書の8者について検討を行った。

各者とも、学習指導要領「中学校（特別の教科 道徳）」の目標である「道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」ことや、各学年の目標、内容、学習指導要領の趣旨を踏まえて編集がなされている。

本地区の生徒の実態は、よさは、素直で明朗快活であり責任感がある面、課題として、自主性や自律心、寛容的な心が不足している面が挙げられる。また、地域の願いとして、郷土を愛する心を育てることが挙げられる。

本地区採択協議会において協議を行い、次の理由により、日本文教出版の教科用図書が適切であると選定した。

日本文教出版の教科用図書については、自主性や自律心、寛容的な心に関連する教材や、郷土愛に関する教材が、全学年で複数教材扱われており、特に本県出身の人材を教材で扱うなどの工夫が多く見られた。また、道徳性を養う指導を行うための内容の充実に関する視点や、学習効果や使用上の利便性の観点から、「考え、議論する道徳」の授業を進める上で有効な工夫が、別冊に多く見られた。

なお、日本文教出版の教科用図書の特徴は、次のような点である。

(1) 構成・配列の工夫については、いくつかのテーマを設定し、発達の段階にあわせて、重点的に取り扱う内容を多く取り上げている。

(2) 道徳性を養う指導を行うための内容の充実については、情報モラルについて、法律の役割を理解し、守っていくことの大切さについて考えさせる工夫が見られる。いじめ問題については、互いを認め合い信頼関係を築くにはどうすればよいか、生徒が主体的に考えられるような工夫が見られる。

また、役割演技やグループ活動を取り入れ、様々な立場から考えたり、友達と意見を交換したりできるようになるなど、道徳的行為に関する体験的な学習を充実させるための工夫が見られる。

(3) 地域の実情から、伝統・郷土愛や地域社会への参画に係る教材を多く配置し、どの学年も複数教材を配列する工夫が見られる。

利便性の向上については、1時間ごとに記録できる道徳ノートで、考えたことを記録し、話し合いのメモができるなど、学習を振り返ることができるよう工夫されている。